

WE
LOVE

July 2022

地域医療支援学レター

vol.
40



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
リレートーク第40回
- 知床らうす国民健康保険診療所との
地域連携
松江市立病院
病院長 入江 隆 先生

活動報告

令和4年3月18日(金)14:00～16:00

地域医療体験実習Ⅰ(春季)
報告会(Web開催)【実習参加者】18名(1年:11名、2年:7名)
【報告会参加者】学生16名(1年:11名、2年:5名)、島根県関係者2名、教員4名

地域医療体験実習Ⅰは、2次医療圏を軸に県内10箇所の医療を現場で体験するものである。新型コロナ第6波到来で保健所・医療機関共に大変お忙しい中、6圏域9箇所ですべて18名の学生を受け入れて下さり、学生は多くの学ぶ機会を頂いた。

この度の参加者は1・2年生の低学年であったが、目標を持って臨んだ学生のレディネスに応じた体験や細やかなご指導を頂き、学生達は実習圏域ならではの特徴を踏まえた学びを得ていた。

報告会は、事前に「1番印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「課題の解決策」の3つのテーマについて個人で整理し、Web上で4Gに分かれて活発な話し合いが行われ、代表が発表した。

「診療科の偏在・医師の高齢化、総合診療医育成・多職種連携」等が報告され、今後の地域医療学習に繋がるワードとして、更に思考の促進が期待される。



令和4年4月16日(土)13:20～18:30

令和4年度第1回しまね総合診療の集い

【場 所】バルメイト出雲4階 バルメイトホール(Zoomと併用のHybrid)
【参加者】58名(対面31名 Web 27名)
【講 師】しまね総合診療センター センター長 白石 吉彦 先生
出雲市民病院 高橋 賢史 先生、上村 祐介 先生

記念講演として、白石吉彦先生に「これから総合診療を始める君たちへ」と題してお話し頂いた。学生時代、海外留学、隠岐島前病院での医療について紹介され、たくさんのメッセージが新専攻医に伝えられた。続いて、高橋賢史先生、上村祐介先生より「専攻医直伝・研修サバイバル術」のレクチャーが行われ、ポートフォリオ発表とクリニックジャズの実践をグループに分かれて行った。新専攻医はもちろん、初期研修医や医学生にも総合診療の面白さを感じてもらえる内容であった。

閉会式では、しまね総合診療センターのチーフレジデント5名が選出され、白石吉彦先生より任命状とネームプレートが手渡された。島根の総合診療医育成に対する先進的な取り組みは、熱意にあふれている。新専攻医の先生方、本会をきっかけとして大きく飛躍されることを期待する。



令和4年4月26日(火)13:00～16:00

アメリカ心臓協会BLSコース
(HeartCode® BLS)開催

【場 所】みらい棟2階 共通カンファレンス室Ⅰ
【参加者】2名
【講 師】日本ACLS協会 島根ECCトレーニングサイトインストラクター

アメリカ心臓協会 HeartCode®BLSは、オンライン学習パートを修了後、会場での短時間スキルパートを受講することで、プロバイダーカードの取得ができる。コロナ禍における新しい生活様式に沿った次世代型のBLSコースである。

今回は、当講座の教員2名を対象として開催した。受講生はインストラクターファシリテートの指導の下、DVDを見ながら成人・小児・乳児の心肺蘇生法並びにAEDの使用法や、ポケットマスク・バックバルブマスク等の手技を学習実践した。コースの最後には実技スキルの試験を受け、見事合格!素晴らしい実技であった。受講者からは「知識だけでなく身体で技術を覚えることができた。実践に役立つ」と感想が聞けた。

本コースは、世界最先端のエビデンスに基づいて開発されている。今後、地域の救命率向上のために定期コースで開催したいと考えている。



令和4年4月4日(月)17:30～19:00

令和4年度地域枠等特別選抜枠
新入生説明会・意見交換会
(ハイブリッド開催)

【場 所】島根大学附属病院 食堂「ラバン」
【参加者】地域枠・緊急医師確保対策枠・県内定着枠、学士地域枠新入生23名
(対面:15名 オンライン:8名)

3年振りに地域枠等特別選抜枠の新入生説明会・意見交換会を開催した。開催にあたっては感染予防の観点から、学生には島根県内在住2週間の健康観察期間を出席要件とした。

学内からは鬼形医学部長、椎名病院長、島根県からは安食健康福祉部長に出席を賜り、ご挨拶を頂いた。医学部長は「自分達の大学を好きになってほしい。また、自分の立ち位置がわかる人間になってほしい。私達の言動を評価するのは他人で、自分ではない。社会から見つめられていることを知っておいてほしい」とメッセージを贈られた。病院長からは、「医療はチームで行う。仲間で行う医療は強いものがある。同期の絆を構築してほしい。」とメッセージが贈られた。健康福祉部長は、島根県の寄附講座で在学中の支援を行う地域医療支援学講座、主に卒後の支援を行うしまね地域医療支援センターをご紹介頂いた。更に今後の島根の医療を支える学生達には島根県民の大きな期待が寄せられていることを伝えられた。

続いて新入生の自己紹介に移り、プチ自慢できる特技と入学しての抱負を述べてもらった。緊張した表情・空気感の中、学生のプチ自慢特技には、会場から感嘆の声や笑いが起こる場面もあり、徐々に和やかな空気に包まれていった。

7名の地域枠等特別選抜枠の先輩学生からは、個々の経験から後輩を思いやる大学生活へのアドバイスとエールが贈られた。

入学式当日の開催でハイブリッド形式にはなったが、地域枠等特別選抜枠の新入生には、同期の仲間・先輩・これから関わる支援者側の顔を知ってもらえ、絆を築く第1歩となった。



令和4年5月16日(月)17:00～18:00

しまね地域医療支援センター主催
1年生キャリア支援セミナー

【場 所】国際交流ラウンジ
【参加者】学生21名

セミナーは3部構成で、1部は佐野教授から「医師になるまでの入門編」として、カリキュラムとその特徴、臨床・専門研修について説明が行われた。また「仲間との時間、恋愛、バイト、部活、ボランティア活動等も大事な経験」とメッセージを贈られた。

2部はしまね地域医療支援センターの児玉事務局長から「キャリア支援の流れとキャリア形成プログラム」について説明が行われた。学生には1・2部を通じて卒前後の支援の繋がりがイメージできたのではないと思われる。

3部は研修医の村上航太郎先生に「大学生活の過ごし方、学生のうちにやっておくべきこと、できること」についてお話し頂いた。学生時代医療の価値観が大きく変容する切っ掛けとなったフレキシブル実習を紹介され「学生の未来の選択肢は無限大、色々な経験をしてほしい」とエールを贈られた。

セミナー報告
SEMINAR REPORT

地域医療Webinar



地域で迷うこと、あなただったらどうしますか?

【実施日】令和4年4月12日(火)18:00～19:00

【講 師】浜田市国民健康保険 あさひ診療所 所長
上野 伸行 先生

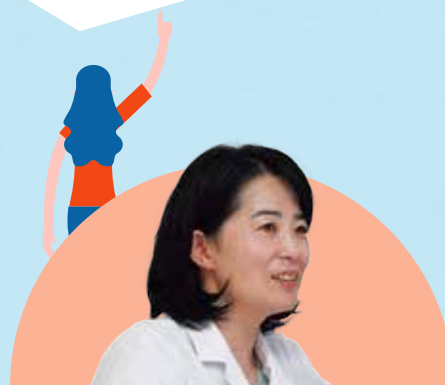
【参加者】38名

概 要

先生は「地域を疑似体験できるセミナーを目指します!」と講師をお引き受け頂いた。疑似体験は2症例を提示され、学生に「あなただったらどうしますか」と問いかけをしながら対話形式で学生の思考を引き出され、その後、先生ご自身がどのように対応されたのかフィードバックが行われた。

また、対象を総合的に診るとはどういうことなのか、対象の健康問題を疾患(disease)として生物医学的に捉えるだけでなく、病い(illness)の視点から捉えることも大事であり、且つ対象やその家族の背景・文脈を考慮することの重要性を教示頂いた。更に医師を志した初学者である学生達に対象理解の有効な枠組みとして示唆を与える『生物・心理・社会モデル(bio-psycho-social model)』を紹介頂いた。

終了後学生からの多数の質問と感想が寄せられ、ロールモデルとしての先生の活躍が益々期待される。



想像していなかった現在の自分

【実施日】令和4年4月11日(月)12:15～12:45

【講 師】島根大学医学部内科学講座内分泌代謝内科
講師 守田 美和 先生

【参加者】27名

概 要

先生は、現在内分泌代謝内科の講師として外来医長・教育長を務めておられる。大学での医師の役割は「教育・診療・研究」の3本柱に「プラスα」があると話された。未だに答えのない病気も沢山あり、患者さんを大事に診ていく中で答えを見つけることも重要な役割であると「プラスα」を説明された。

また、糖尿病に関する正しい知識普及の為「出雲大社のブルーライトアップ」の活動や、昨年は「お散歩チャレンジGo to トロント」の実施、糖尿病療養指導士の育成、小児糖尿病1型の患者支援キャンプ、加えてDMATとしての活動等多彩に活躍されている。

常に患者さんと共に歩もうとする先生の姿勢は、先生が「目指す診療スタイル」で紹介された「守田先生にお会いすることができて、糖尿病になったけど良かったと初めて思いました。」のメッセージにしっかり届いていることが分かる。

Career Webinar

学位っていらなの?専門医っていの?
海外留学するためには?

【実施日】令和4年5月18日(水)12:15～12:45

【講 師】島根大学医学部外科学講座呼吸器外科
教授 山根 正修 先生

【参加者】13名

概 要

意味深長な疑問文のテーマは開催まで大変興味をそそられた。先生は医師としてのキャリアに学位・専門医・留学の3つは一言でいうと「いらない」と言明された。

キャリアは客観的キャリアと主観的キャリアがある。学位等は経歴としての客観的キャリアで、主観的キャリアはどのようなキャリアを歩みたいのか、客観的キャリアについてどう考えるか、自己への3つの「問い」から生まれと教示頂いた。その問いは、「①才能、②動機、③価値観」で、自らの自己イメージを形成し年々自分の中で涵養されて自己認識を深め、アイデンティティの獲得にも繋がるとお話し頂いた。

学位・専門医・留学は、自分が理想とする医師像に近づくためにはどのようなキャリアが必要かと考える時に附随してくるもので、まずは主観的キャリアの価値観を問うことが大事であることを学んだ。

緩和ケアと在宅医療の歴史から考える在宅医療の
基本的価値と在宅医療のプロフェッショナルリズム

【実施日】令和4年5月13日(金)18:30～19:30

【講 師】東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長
平原 佐斗司 先生

【参加者】19名

概 要

先生は「1. ケアと医療の発生と歴史」「2. 時代とともに変わる緩和ケア」「3. 在宅医療の歴史と基本的価値」「4. 在宅医のプロフェッショナルリズム」の4部構成でお話し頂いた。

ケアと医療・緩和ケアの歴史は、事象の意味・変遷だけでなくその関連を多面的に捉えることができ、3・4部に繋がる基本的な知識となった。

昭和50年代、在宅医療の先駆者たちが示した「基本的価値」は「患者中心:患者はhost 医療者はguest医の本質はservice」『暮らしの場で最期の時間を支える』等を紹介された。その基本的価値は今なお在宅医療の根底に連綿と受け継がれ、偉大な足跡を残した先人が偲ばれた。

在宅医療の基本的価値・プロフェッショナルリズムは、学生達にとって医学を学ぶ意味や価値について認識を新たに、自らに問い考えていく事の大切さを教示頂いたように考える。



学生のあなたに伝えたいこと「感染症医編」

【実施日】令和4年6月1日(水)12:15～12:45

【講 師】島根大学医学部附属病院感染制御部
准教授 羽田野 義郎 先生

【参加者】27名

概 要

先生は、臨床感染症医・感染症コンサルタンとして活躍されている。臨床感染症医は感染症診療・感染対策・感染症疫学・予防医療が主な領域であり、感染症コンサルタンとして診療科からの相談に答えている。コンサルトの対象はすべての診療科であり、各診療科で求められる知識は異なり、薬剤・解剖・治療法など幅広い知識が求められる。

先生は、感染症を防ぐ仕事をしたいのと考えから、当時は珍しい臨床感染症医の道を選ばれ、日本各地や海外での研修を積まれた。キャリアについて、学生に「自分のキャリアは自分で決めるしかない。先を見据えた計画を立てる。」ことをアドバイスされた。

更に、「卒業後の評価は学生時代の成績に相関はなさそう」と私見を述べられ、卒業後の環境などで「Change Agent」となることが大いにあったと話され、とても勇気づけられた。



松江市立病院

病院長

入江 隆 先生

松江市立病院は病床数470床、28診療科を有する松江圏域の中核的かつ高度急性期・急性期病院として機能しています。がんセンターと緩和病棟を備え、がん患者に関するトータルケアを提供するのが本院の特徴です。

地域医療を実践していく上では、医療機関同士が相互に円滑な連携を図り、それぞれの有する機能を有効活用することが重要です。連携を強化していくためには顔の見える関係作りが大切です。コロナ禍にあって対面での連携が困難となってきましたが、代わりにWebを利用した環境が整ってきて、コロナ収束後もWebによる研修やカンファレンスが主体となってくるかもしれません。

さて、当院はへき地医療を知る機会を得るために「知床らうす国民健康保険診療所」とも連携しています。2014年からこれまでに研修医5名と看護師7名を派遣しました。らうす診療所は最も近い病院でも60kmの遠方にあることから、救急搬送時には救急車に同乗し、病院に到着するまでの間の、

確な判断と指示が要求されるなど、へき地医療における救急外来の厳しさを経験することができます。また、地域住民を対象とした保健指導、さらに老人クラブなどの地域行事へ参加することにより健康増進への役割を担い、本院では得られない貴重な経験をすることもできます。

研修医の皆さん、羅臼に行ってみませんか？



松江市立病院

〒690-8509 島根県松江市乃白町32番地1
TEL 0852-60-8000(代表) FAX 0852-60-8005

第13回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 学生参加

演題「やさしい日本語という技術」 医学科3年 大井礼美さん

人生初の学会に、活動報告を通じて「やさしい日本語普及」をすべく参加しました。学会という気難しい厳かな雰囲気を想像していましたが、会場は熱気に溢れていました。全国の幅広い珍しい取り組みから、医学的研究・知見に至るまで、分野にとらわれず様々なものに触れられてわくわくしました。

プライマリ・ケアというキーワードを通じ知り合えた、普段では関われない学生や先生方との繋がりは今後大事にしたいです。プログラムでは臨床研究の口演も拝聴し、いつか自分も有用な情報を提供できるようにしたいと実感しました。



「Youは何しに学会へ？」企画運営!! プライマリケアとの激アツな2日間横浜 医学科3年 中尾光希さん

普段オンラインで繋がっている全国の総合診療マインドを持った熱い仲間や先生方と初めてオンサイトで会うことができました。横浜に滞在中は朝から晩まで総合診療や将来を語り合い、知識面でも精神面でも吸収できることが多く、今でも余韻に浸っています。2日間を通して1番感動したことは、全国の総合診療医の先生方とお話していると、「島根熱いね〜!」と声をかけられることが多かったことです!全国各地の良さを知り、改めて島根の良さを知れた学会でした。この学びをこれからの学生生活に活かしていきたいです。



今後の予定

Career Webinar

令和4年7月6日(水)12:15~12:45
講師:田村 太郎 先生
島根大学医学部環境保健医学講座 予防医学 准教授

令和4年9月2日(金)12:15~12:45
講師:比良 栄司 先生
島根大学医学部附属病院高度外傷センター 講師

令和4年10月予定
講師:柴垣 広太郎 先生
島根大学医学部附属病院 光学医療診療部 准教授

地域医療Webinar

令和4年7月20日(水)18:00~19:00
講師:高尾 碧 先生
島根県立こころの医療センター 精神科部長

令和4年10月予定
講師:齋藤 稔哲 先生
宮城県気仙沼市立本吉病院 院長

えんネット交流会

令和4年7月4日(月)17:30~18:30

総合診療医 ブラッシュアップセミナー

令和4年8月7日(日)10:00~12:05

島根県知事表敬訪問

松江市立・松江生協・松江赤十字病院見学

令和4年8月8日(月)8:00~15:30

地域医療体験実習Ⅰ(夏季地域医療実習)

令和4年8月22日(月)~8月26日(金)

研究室配属

令和4年8月29日(月)~9月30日(金)

ワークライフバランスセミナー

令和4年9月21日(水)18:00~19:00
講師:澤田 忠幸 先生
石川県立大学教養教育センター 教授

レターをお読み頂きありがとうございます。

2月24日以降、世界の目はウクライナに注がれています。日本は戦後77年間にわたって戦争を経験していませんが、ニュースで刻々と伝えられる戦場の惨禍に接すると、言葉を失ってしまいます。日本は1ヶ月後に原爆の日、終戦記念日を迎えます。戦争を知らない世代ですが静かに平和を祈りたいと思います。

今回の、レターのキーカラーは“幸福と平和の象徴”である「青色」です。

